

## 生涯研修プログラム 産婦人科診療ガイドライン (産科編) 解説

## 4. CQ407 羊水混濁時の対応は？

## CQ605 妊婦における風疹罹患の診断と対応は？

横浜市立大学附属市民総合医療センター 高橋 恒 男

## CQ407 羊水混濁時の対応は？

Answer 1. 破水後は羊水混濁の有無に注意する。(B) 2. 羊水混濁を認めたら、分娩監視装置を使用する。(B) 3. 胎児心拍数パターンに異常がないときは、特別の処置を必要としない。(B) 4. 出生後、呼吸障害(新生児仮死やMASの発生など)に注意する。(B)

胎便の誤嚥により発生する胎便吸引症候群(Meconium aspiration syndrome; MAS)は、新生児の重大な合併症である。羊水混濁があると周産期罹病率や死亡率が上昇するとの報告がある。羊水混濁は、分娩の6~25%にも認められる。現在では、羊水混濁の多くは胎児成熟を反映したものであり、低酸素状態やアシドーシス自体は、羊水混濁の原因とはならないとする考えが優位である。しかし、胎児心拍パターン異常と羊水混濁を同時に合併した症例では、アシドーシスや蘇生を必要とする新生児が増えることが認められている。

低酸素と胎便吸引は胎児肺損傷を招く可能性があり、羊水混濁は胎児がアシドーシスになった時には危険な環境となる。したがって、破水後は羊水混濁の有無に注意を払い、羊水混濁を認めた時は、胎児の低酸素状態発見のため、分娩監視装置装着が勧められる。胎児心拍数パターンに異常がないときは、特別の処置は必要としない。羊水混濁時、MASや帝王切開回避目的で人工羊水注入が試みられる場合があるが、最近Fraserらは効果がないと結論している。

また、出生後は新生児の呼吸状態(MASの発生)に注意する必要がある。

## CQ605 妊婦における風疹罹患の診断と対応は？

Answer 1. 妊娠初期に、風疹抗体価(HI)測定を行う。(A) 2. 妊娠初期問診項目に過去3カ月以内の以下の4点の有無を加える。(B)発疹、発熱、頸部リンパ節腫脹、小児との接触が多い職場環境。3. 以下の場合には問診とともに風疹感染診断検査を行う。(B) 1) 風疹様症状(発疹、発熱、リンパ節腫脹)があった場合。2) 風疹患者と明らかな接触があった場合。3) 妊娠初期の検査でHI抗体価256倍以上。4. 感染診断検査はペア血清HI抗体価および風疹特異的IgM抗体価測定を行う。(B) 5. 風疹HI抗体価が16倍以下の妊婦には、産褥早期の風疹ワクチン接種を勧める。(C)

妊娠初期の女性が風疹に罹患すると、先天性風疹症候群を引き起こすことがある。妊娠のなるべく早い時期に、抗体価絶対値の意味づけについて既によく検討されているHI抗体価を測定する。測定の目的は、抗体陰性または低抗体価の妊婦に対し、生活指導を行い風疹罹患予防に努めることができる、産褥あるいは流産後の風疹ワクチン接種を勧奨できる、そして妊娠初期での感染診断・否定のための有用な情報となることである。問診の確認も重要である。

風疹罹患(疑い含む)妊婦の対応診療指針として、各地区ブロックごとの相談窓口(2次施設)との間で症例検討・情報交換を行うこと、また2次施設でのカウンセリング要請、胎児診断等の希望がある場合には、2次施設への紹介が研究班より提言されている。

抗体陰性または低抗体価妊婦には、次回の妊娠における風疹罹患のリスク減少、および社会全体の抗体陽性率上昇に貢献する目的で産褥早期の風疹ワクチン接種が勧められる。